

一三、拜觀船(部内)ニ関スル件

0019

起案部紙第一號

大正元

十月八日

起案部紙

十月八日

日發行

捺印

天村

捺印後起

王

軍務部長

局長

大臣

次官

參事官

副官

人

長

長

岡田

勝

勝

松本

第三部

福田

總政本部長

會計課

渡邊

經理局長

勝

主任局員

泉

秘記

大正元

十月八日

横鎮

來

横濱

沖

式

式

式

式

式

式

式

發送

番號

七五三

號

每

日

0020

10/1

者、業弘トシテ業東也。其用也。其内定
ニ為之。其付也。其不也。其取也。其必也。其要也。其門也。
業弘ハ業東トシテ業東也。其用也。其内定
ニ為之。其付也。其不也。其取也。其必也。其要也。其門也。

右申進ス

(後)

0021

陸

昭和三年十月十八日

起案者 捺印

本

十月二十一日

發付掛 捺印

本

發付起 案者捺印

(五) 軍務局長

局員

本

本

本

大臣

副官

本

本

本

本

本

次官

參事官

經理局長

勝

局員

本

軍令	水略	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局、部	受月日	發月日
						本			/				

大正三年十月二十二日

次官

本

本

番号 官 九三號

AS00

0023

親記式書付御船トシテ高崎ニテ使用セシメテ
 ルル豫定ニ付同船来月十一日横濱ヨリ出帆ノ豫定
 ハ船名此期セシムコトハ所可斗申上ル
 右ノ事ト申上ル

(終)

8800

0024

大正 海軍

大正 海軍

親艦事務委員長



委員



海



軍



別記 海軍 事務 委員 長

と 併 用 一 部 中

大正 海軍 事務 委員 長 事務 委員 長 事務 委員 長 事務 委員 長



花崎 楠

0025

高砂丸新記

一、高砂丸、安政元年、由長崎出帆、向東洋、

二、^{高砂丸}高砂丸、安政元年、由長崎出帆、向東洋、

三、^{高砂丸}高砂丸、安政元年、由長崎出帆、向東洋、

高砂丸新記

一、新設船「高崎丸」
 二、高崎丸「徳島岸」
 三、高崎丸「高崎岸」
 四、高崎丸「高崎岸」
 五、高崎丸「高崎岸」
 六、高崎丸「高崎岸」
 七、高崎丸「高崎岸」
 八、高崎丸「高崎岸」

り

奉送

海軍

大正元年十月十九日
横濱税関
物産部
海軍親礼式了務新員

親礼式了務新員
横濱税関
物産部
海軍親礼式了務新員
横濱税関
物産部
海軍親礼式了務新員

親礼	親礼	親礼	親礼	親礼
三九	四六	四九	二七	二九
二九	二七	二八	二四	二四
二九	二七	二八	二四	二四
二九	二七	二八	二四	二四
二九	二七	二八	二四	二四

0028

海軍

<p>476</p>	<p>3953 植名時</p>	<p>42658' 49' 7"</p>	<p>27-0" 植名時</p>	<p>6.193</p>
<p>477</p>	<p>294304</p>	<p>374-9' 48-1'</p>	<p>24-4"</p>	<p>474684</p>

九ヶ浦ノ名
 猪ノ名
 花崎

0029

觀艦式事務委員

大正五年十月十六日

東京

海軍省

観艦式了結書

持歸收書長

外務省

十月廿日發行濟



十月廿日發行濟

海軍

事案の中心に観艦式あり、是れは乃ち海軍の、外務省
軍艦隊の、若し山岸の、持歸せし、後観艦式、年々
改定せらるゝ、其の如く、可なり、我ら、何れ、何れ、
所、何れ、何れ、
此、何れ、何れ、
此、何れ、何れ、

北村

0030

軍艦滿州

排水量

三九一六^ト四八

総噸数

三三四六七

全長

三百五十四呎

幅

四十三呎三吋

喫水

十六呎

海

軍

在時ヨリ

0031



電報着信紙

局 着		局 發				名氏所居人信受		
取投者	受信	五	付午	第	ヨ	<p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p> <p>カ 1</p>		
	付午		後前					後前
				十	ハ			
				月	ハ			
				三	ハ			
				六	ハ			
				日	ハ			
				號	ハ			
				局	ハ			
				報	ハ			
		字	分	日	報			
						定指		
						事記		
						番着		
						數紙		
						名氏所居人信發		
						一	カ	
						三	カ	
						第三十九號	カ	
						印附日信着		

親快式の寄附状
 寄附指附の旨を
 御返事にて
 御返事にて

0032

官第二四五號

其月廿五日附觀舟四隻多以軍艦極海ヲ常時整船岸壁入繫
海ノ件ハ照會アリテ承知ノ覺候多ク及仰回答ハ速ニ申付
檢支障無之矣若蒙留スルハ船船ノ各豫定位ハ付付ノ通
古定ニ承知リテ承知ハ此ハ及仰回答多ク
大正三年十月廿九日

海軍省

親船政事務委員

印

横濱關

横濱關

横濱關

0033



其洋紙

洋紙國面標後稅商陸上設俾計五兩五圓

茅四号 岸壁

茅五号

茅八号

々

々

高崎舟

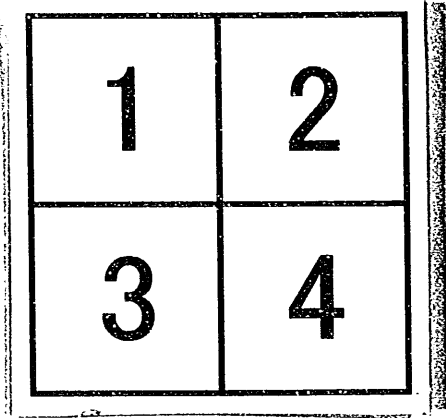
岸壁 関東丸

岸壁 関東丸

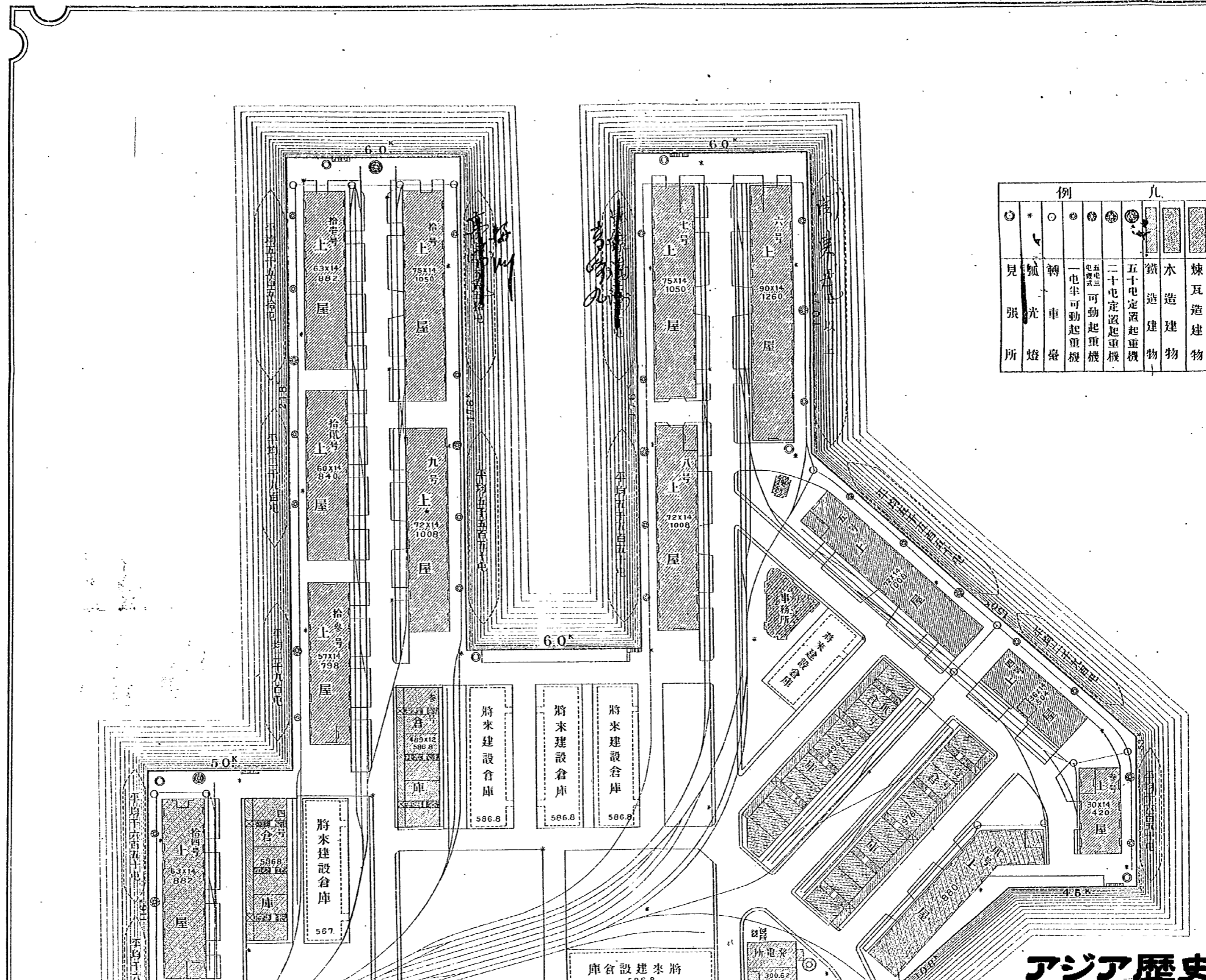
横濱税関用紙

0034

分割撮影ターゲット

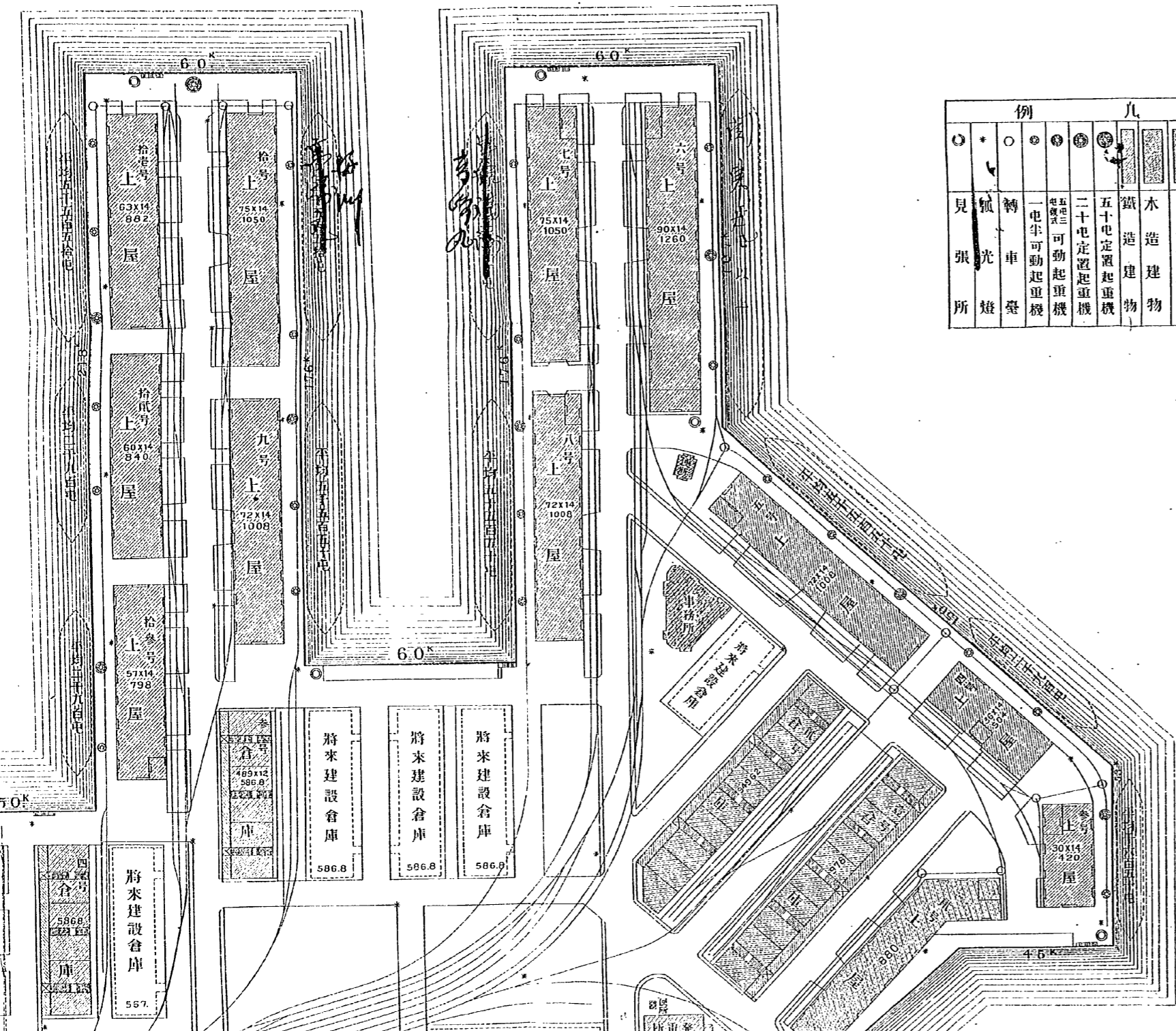
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0035
0036
0037
0038



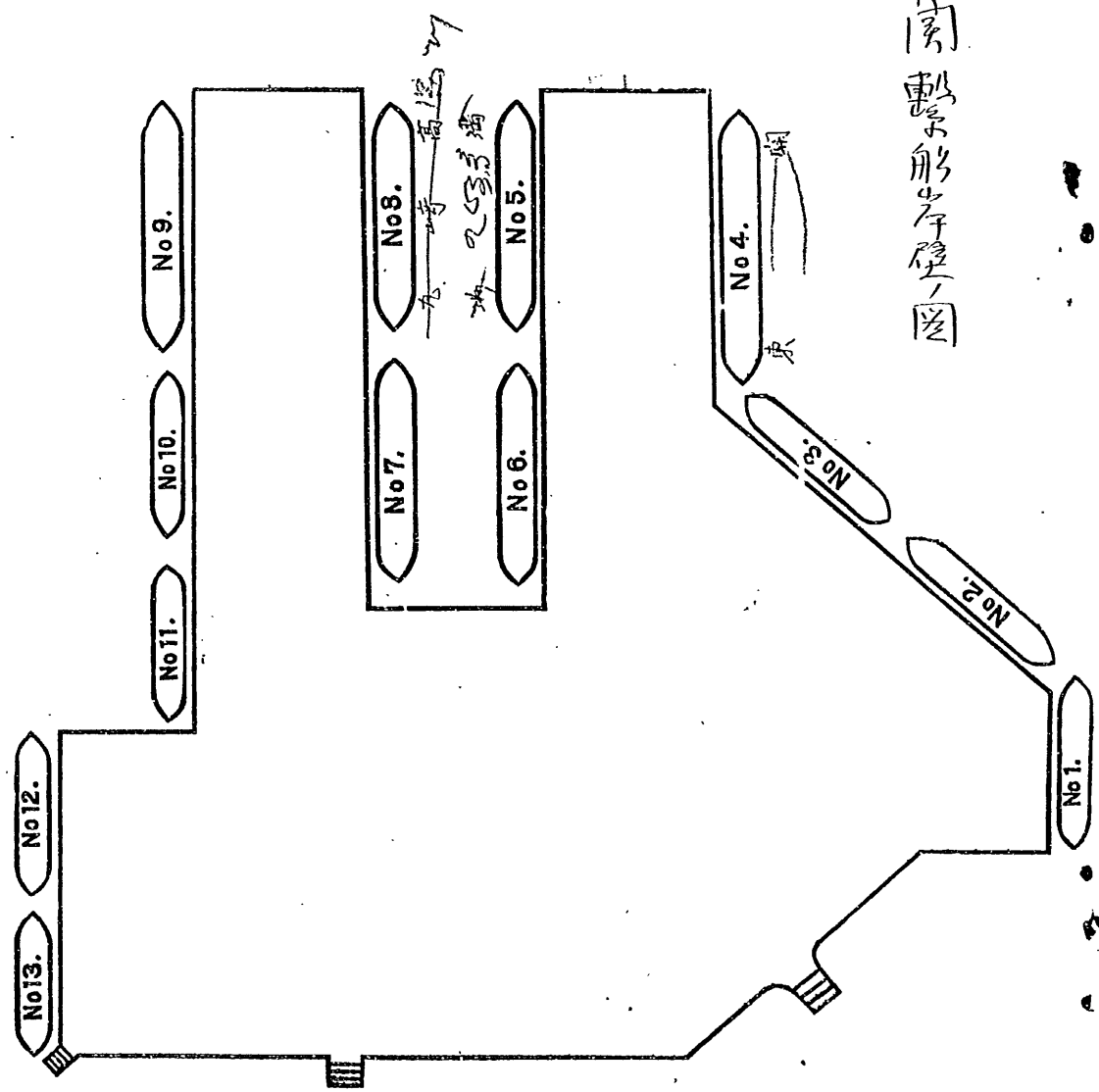
横濱税關陸上設備計畫配置圖

例		凡	
○	*	○	○
見張所	輻光灯	轉車臺	五噸可動起重機
			二十噸可動起重機
			五十噸可動起重機
			鐵道建物
			木造建物
			煉瓦造建物



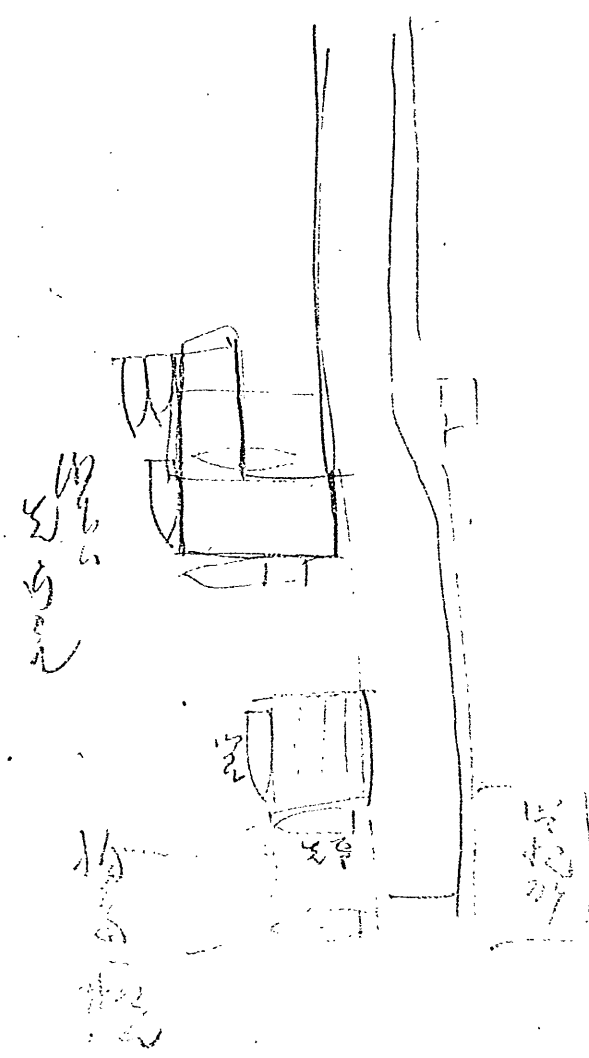
12/16

横濱後園 船形倉庫図



180
1266
601

0039



物置
窓
障子

物置
窓
障子

物置
窓
障子

0040

電報

海軍

十月十七日
午後十時
發

海軍大臣
野田 毅

海軍大臣
野田 毅

南
海軍大臣
野田 毅

又
海軍大臣
野田 毅

海軍大臣
野田 毅

花崎 納

0041

陸

元年十月廿

日起案 起案者 捺印

本

十月二十一日

發付 發付掛 捺印

村

發付後起 案者捺印

(主) 軍務局長

局員

局員

局員

大臣

次官

副官

參事官

觀艦式事務委員

大正元年十月二十二日

大臣

機學第一。六號海軍機學學校長に申生送觀艦式事務委員に認許す

近テ詳細ニ觀艦式事務委員ト協議セムヘシ

官房第八七四號三

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部	受月日	發月日

十月廿二日 官房接覽

CA00

0042

教育本部

副官

第三部長

部員

十月廿一日
海軍省接受

機學第一〇六號

十月十八日進達

大正元年十月十六日

海軍教育本部長 男 西村 坂本 俊 篤 殿
海軍機関學校校長 市川 清 次 郎

生徒觀艦式 一件

來月十月觀艦式御奉行當日本校生徒由良川丸
二乘船陪觀ノ為ノ集列為致度俟奉得御詮議度
右上申ス
(終)

軍務局

十月廿一日進達

致本第一九九號

官房第八七四號

海軍

0044

10.21.01

軍務局
紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正元 年十月九 日午前十時十一分受 海軍省

海軍省副官

横鎮副官

來十月九日艦觀式拜觀船トシテ機關學校

ヨリ由良川丸ニ生徒ヲ乗セテ出シマスガ此學校

校長以下高等生ノ家族ヲ同船ニ便乘

致サセヨキ希望ヲ申出ヨリガ特別ヲ以テ款

許ヲ願ヒマス

吉田文吉

十月九日午後三時

0046

電報 報 着 信 紙

軍務局



局 着		局 發		受 信 人 居 所 名	
取 扱 者	受 信 時 分	受 信 時 分	第 一 報 局 號	指 定	事 記
	午後 前	午後 前	土 日		
分	分	分	日		
	⑤	⑥	⑦		
	分	分	日		
取扱者 横領 〆 〆 〆		受信時分 午後 前 ⑤ 分		受信時分 午後 前 ⑥ 分	
第一報局號 〆 〆 〆		指 定 〆 〆 〆		事 記 〆 〆 〆	
受 信 人 居 所 名 〆 〆 〆		受 信 人 居 所 名 〆 〆 〆		受 信 人 居 所 名 〆 〆 〆	

軍務局

0047

電報

海軍

大正五年十月十日午後一時十分

横濱副官

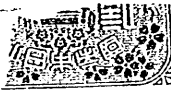
坂本親飛式事務長宛

来日観覧者列為松坂ヲ

福地、指定ヲ請フ

化崎納

0048



電報送達紙

注意

受付月の記入を省略したるものは受付の當日發局に於て受領したるものとす

注意

万一差入を致したる電報の配達を受けたるときは其山を付送し直に之を配達したる電報局所に返戻せらるべく決して其受取本人へ直送し又は手渡しせざることを

局著		局發			受信人居氏名	
受信 時刻	分	時	日	月	報局	氏名
午後	1	時	2	月	報局	シムカ
分	5	時	0	日	報局	イカカ
分	10	時	0	日	報局	イカカ
分	15	時	0	日	報局	イカカ
分	20	時	0	日	報局	イカカ
分	25	時	0	日	報局	イカカ
分	30	時	0	日	報局	イカカ
分	35	時	0	日	報局	イカカ
分	40	時	0	日	報局	イカカ
分	45	時	0	日	報局	イカカ
分	50	時	0	日	報局	イカカ
分	55	時	0	日	報局	イカカ
分	60	時	0	日	報局	イカカ

印刷局製造

0049





0050



電報

大正元年十月十日午後三時五十分 横濱 東京

横濱 東京

郵部 航路 奉 答 長 記

松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記
松江 觀 航 路 奉 答 長 記

了

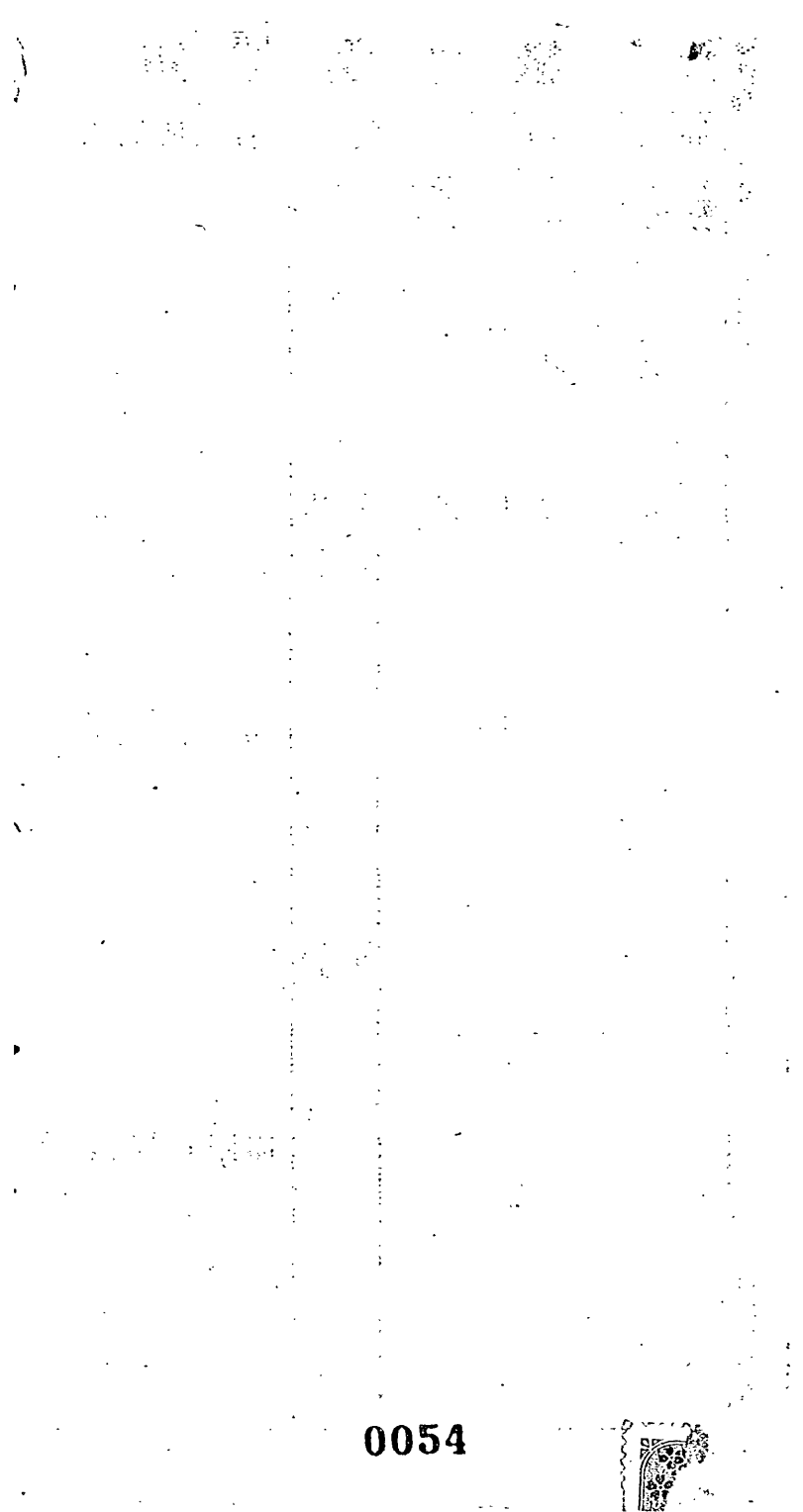
海

海

海

化 時 納

0051



0054



電譯

大正三年十一月十日

横須賀鎮守府事務長

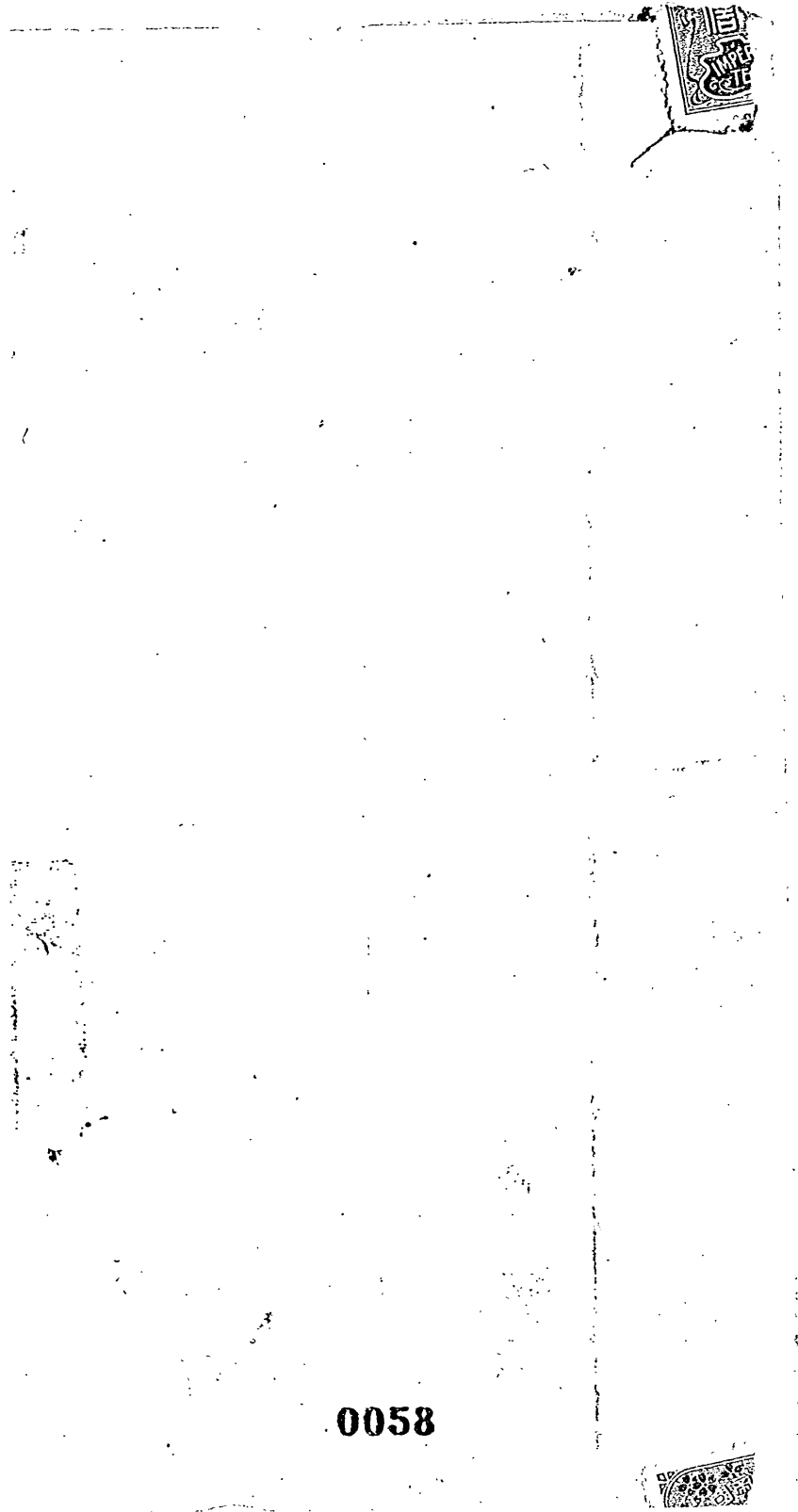
財部視聽式事務長

来ル十二日高木官家族其他ノ松江
者多乗セ觀艦式系列ノ為メ
横濱ニ回航セシマラル

海

花崎清

0055



0058

觀望三務委員

至急

大正三年十月十日

海軍

松尾三務委員

十月十日發行済

觀望式の場鋪地打觀船列浮橋の三島(松尾)
東丸、四島、高島丸、十島、由良丸、十二島(松尾)
松尾の指定を決定し、付、るるに

松尾指定

海軍

化時稿

改訂

0059

海軍

電許

大正九年四月十日

長崎支店

親筆或は捺印あり

竹の子家、大正九年四月十日、函、手紙、ス

花時増

0060



0062



皇

海軍省副官



海軍

観艦式事務委員長



委員



あふ

大正九年十月廿八日

観艦式事務委員の長

松尾重太郎様

今回、海軍大演習観艦式之際に、貴方及之
等、在り、特観艦式之準備に、お力
を、おこし、御礼に、おたす。ハ、た、御
領、有、恩、存、ス。

(別紙 三)

観第 三 號

花崎箱

十月廿八日 發行済

0063

海軍

大正十四年十月廿八日 坂本重太郎

平田實利友宛

十月廿八日 發行濟

原書中及言論は多し相違はなし之を引用するに就
て別紙一通を付す其の抄本は別紙に記す
一、原書中「多し」を「多し」に改す
相違なし

(別紙 参考)

観第 〇三 號

花崎 納

0064

關東丸及高崎丸

一、乘船拜觀者ハ關東丸約四百人、高崎丸約千人ノ豫定

二、十月十一日横濱港外ニ来泊全十二日午七時迄ニ別圖ノ如

ク税関繫船岸壁ニ繫留午前八時出港豫定錨地ニ就キ

御還幸後横須賀海軍港務部長ノ指示ニ從ヒ列間航行

ノ後再ヒ元ノ岸壁ニ繫留拜觀者ヲ上陸セシムルコト

三、關東丸拜觀者ニハ晝辨當ヲ供給シ高崎丸拜觀者ハ辨當

ヲ持參スヘキニ依リ適宜ノ所ニ兵員食卓ヲ並列シ湯茶

ノ準備ヲナスコト但シ關東丸食卓上ノ白布ハ辨當受員

者ヲシテ準備セシムルコト

あるは地シ

四、湯茶用土瓶及茶碗ハ横須賀海軍下士卒集會所備付

品ヲ借用スルコト但シ之カ損料及欠損ハ觀艦式事務委

0065

員ヨリ之ヲ支給補償ス

五、日本茶其他ノ諸雜費ハ觀艦式事務委員ヨリ之ヲ支給ス

六、乘員ハ總テ接伴案内ノ任務ニ服ス

七、税関出岸壁繋留費用ハ觀艦式委員之ヲ文辨ス

八、拜觀者ハ拜觀券ヲ所持スヘキニ依リ其船名ニ從ヒ乗船セシムルコト

九、拜觀券見本各三枚封入ス

十、西船トモ満船節ノ準備ヲ要ス、電燈艦節ハ之ヲ要セス

十一、接伴員用赤白緋合セノ表章ハ別ニ之ヲ交付ス

花崎組

0066

官第二二二號

本月十四日附親等一四號及十九日附親等
二五號以上來十月十二日舉行せりルキ
親艦式席白相親者乗船ノ為メ海軍
所居船復東丸及高崎丸ヲ當國敷系船
少午時止ニ敷系留セシメ度者御船人云
了承西船共右十一月十二日當國限リ敷系留
可致義有之ヲ別紙圖面各朱書
位置敷系留セシメシテ障葉ニテ
街相答一也

横濱税関

大正元年十月廿二日



横濱税関

0067

1.10.23

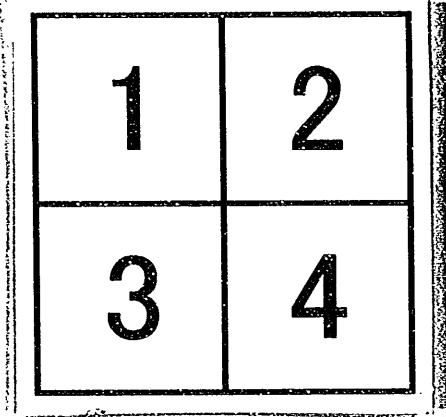
2008.88
月

海軍省
観艦式事務本
員多敷系官以上及皇族
船中
岸上
旗
王
使
用
料
知
付
右半
渡
此
般
為
合
中
作
也
ヤ

皇
清
省
信

0068

分割撮影ターゲット

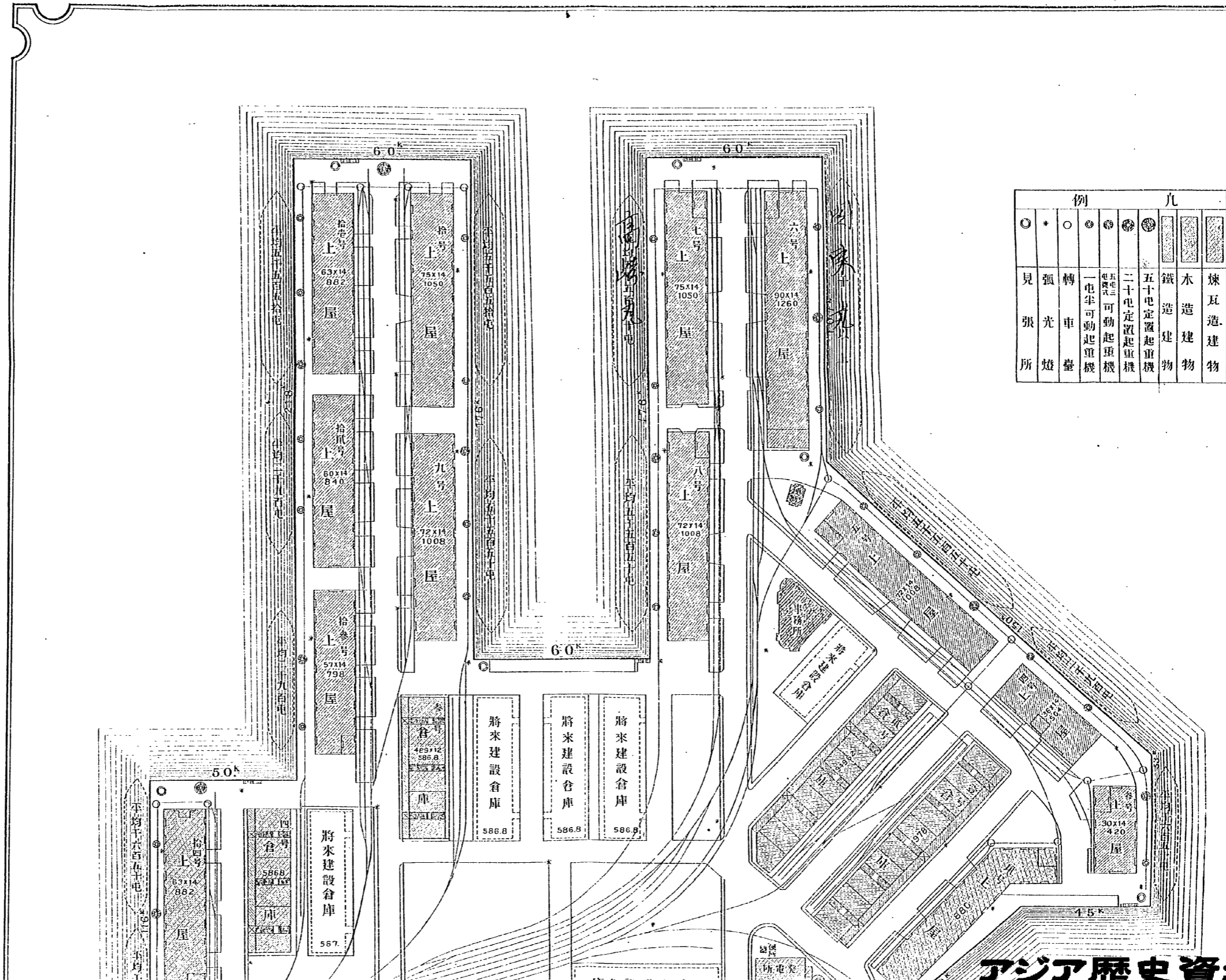
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0069

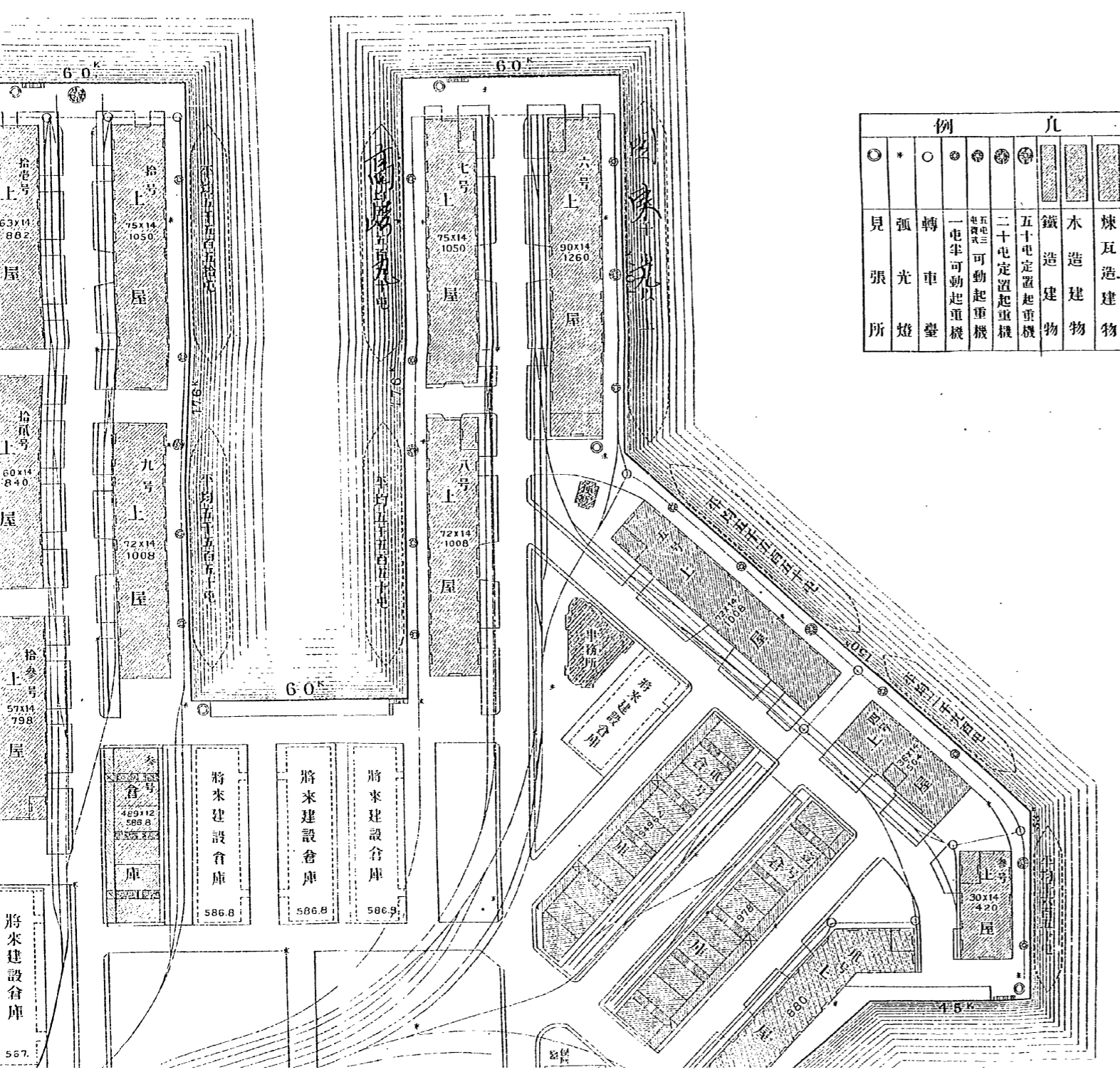
0070

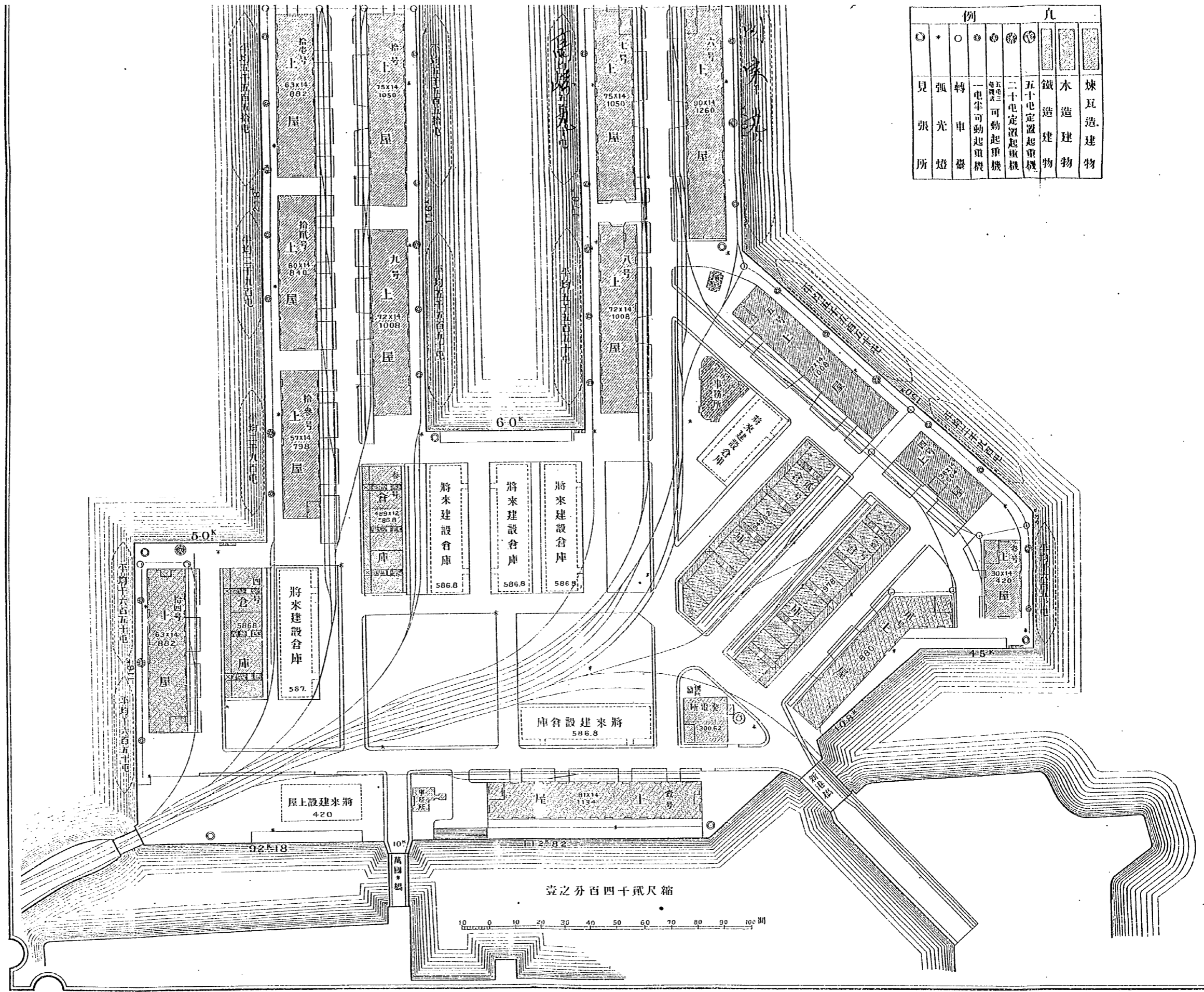
0071

0072



横濱税關陸上設備計畫配置圖

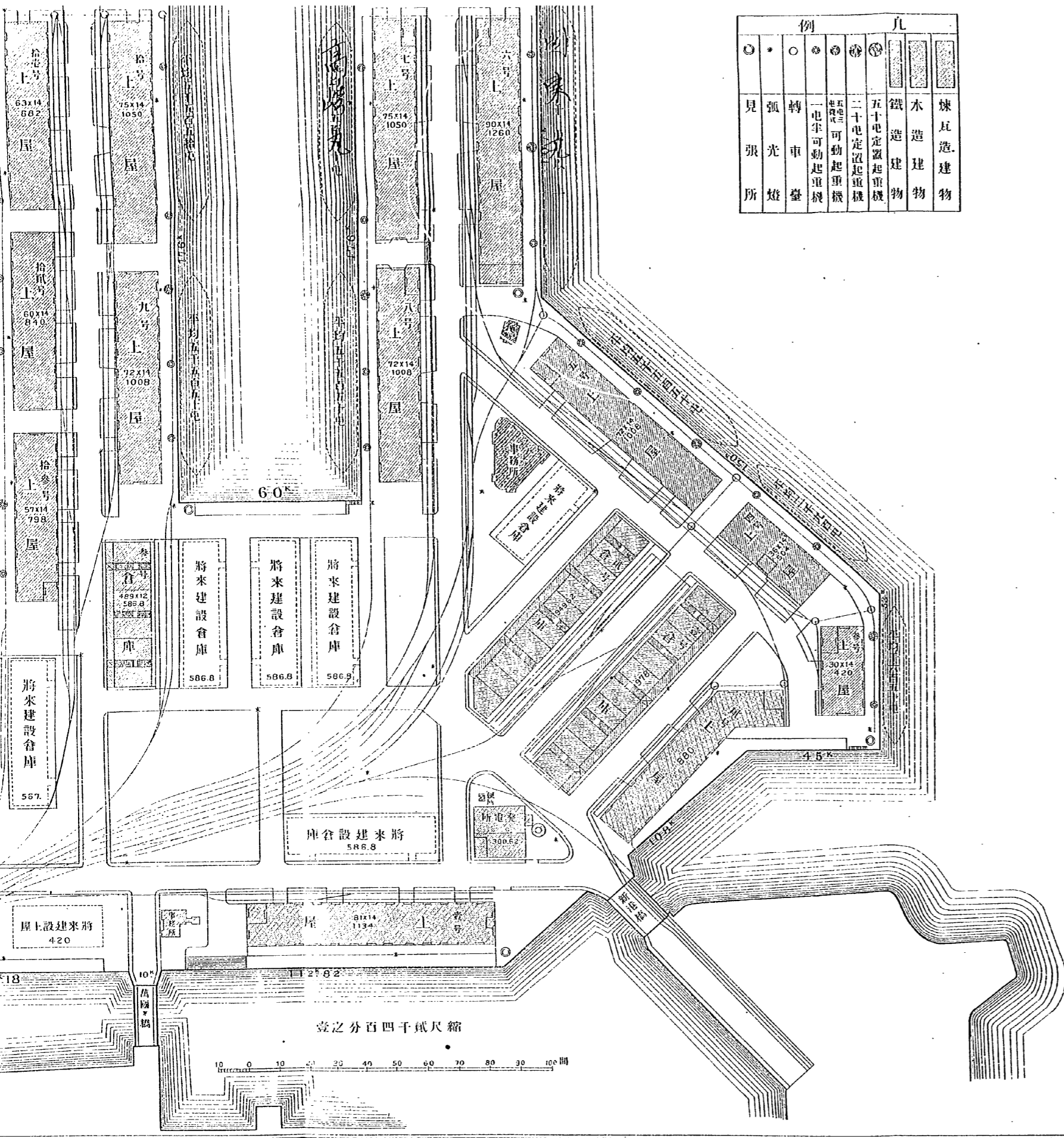




例		凡	
○	+	○	●
見張所	弧光灯	轉車	一電半可動起重機
		五電三可動起重機	二十電定置起重機
		五十電定置起重機	鐵造建物
		木造建物	煉瓦造建物

稅關陸上設備計畫配置圖

例				凡		
○	*	○	○	○	○	○
見張所	弧光燈	轉車臺	一電半可動起重機	五電三可動起重機	二十電定置起重機	五十電定置起重機
					鐵造建物	水造建物
						煉瓦造建物



陸上設備計畫配置圖

海軍大臣

陸軍大臣

和レソレ設備ノ中留意ヲ然ト存ル實ニ先級各員
 是族中事邦ノ御設備ノモノ其勤ニ於テ先分
 ノ注意ヲ拂州ノ序ヲ達至ニ其勤ニ於テ先分
 用ルル事同レノ以テ或ハパイおんト等ノ用意モ至ニ分
 用レソレノ如キ設備ノ用意モ至ニ事ニ敷固ノ事ナリ
 不備事ノ至ニ海軍費ノ台帳ニおレソレノ使用ノ事
 未ダ之ノ準備必要ト存ル所ハ和ルル事ノ外漢ノ以
 至キ事次ニ至ル所ニ於テ他種ノ海軍費或ハ外國ハ日ノ
 言ハテ先分ノ如キ事ノ所感申述下後何年ノ不備
 中留意ノ如キ最ル台帳ノ就分ニ拙速ニ族接
 俸給表書中ニ留意見提出為望ハ此身ノ不備
 右取急申上ノ如キ事ノ如キ人

花崎 納

0074